



問答無用の値上げラッシュ。食料品だけでなく建築資材もです。たまりません。

見積している最中にも値上のfaxがきます。80枚くらいになって覚えてられません。辛いときには会長から元気をもらっています。

4月京町家再生研究会の例会に呼ばれました。9月にもキャンパスプラザ京都にて、「京町家今昔—その変遷と現在に伝える知恵—」と題し、150名を前にレクチャーする予定です♪ ますます元気です。



4/16 京町家再生研にて

広間の茶室

某京町家改修工事に伴い、四畳半広間の茶室を普請する機会を頂いた。普段のお稽古はもちろん、将来茶道教室として利用する事も視野に入れての計画。

京町家の間取りを踏襲しながら、茶室としての機能を持たせる。もちろん、普段の生活の場でもあるので動線を分かちながらも不自然にならないよう腐心。お稽古にとって不可欠な待合、露地、水屋などは四畳半広間茶室に隣接するように配置した。

造作材の選定では、施主様と銘木店を訪れ実際の材料を見学して頂いた。床柱や床框、落とし掛けに天井板など、数ある材の中から好みの材を選定して頂く。床柱には『北山杉天然絞丸太』を、床框には『樺』、落とし掛けには『赤杉』を採用。床廻りの材や竿縁天井などは新材にて新設したが、残る柱の多くは古材を再利用した。しかたなく据え変えた新柱は、古材

に合わせて材の等級や面の大きさを調整しながら意匠を古材に寄せて調和を図る。新材には塗装を施さず、古材と新材を鮮やかに対比させた。

京町家の要素である大和天井や糸屋格子、腰板に漆喰壁などの要素は踏襲。一部の造作に網代や竹を用いて草庵の意匠を用いてはいるが、書院の茶に近い仕上がりになったと思う。

日本が世界に誇る喫茶文化である茶道。そのしつらいである茶室を、京町家の中に落とし込むという貴重な経験をさせて頂いた。

茶道初心者である私を信頼して頂き、仕事を任せて頂いた施主様、並びに数々の助言を頂いた方々に感謝。やっぱり京都、迷った時に素晴らしい手本が身近に佇んでいる事に改めて気づかされた。

小野 敏明



待ち受け擁壁

児童施設の新築を、もえぎ設計さんと、去年の秋ぐらいから取りかかっています。今回ご紹介するのは、工事にあたり、建物を守るために新設した待ち受け擁壁です。



工事前の写真です。手前の更地が、建物を建てるところで、写真の機械のある場所につくります。石積の手前になります。この石積みは、3m以上あります。万一のために備えるための擁壁です。



工事中型枠の中を写真撮りました。斜めになっている板の中にコンクリートを流し込みますが、コンクリートが、重たいので、かなりしっかりと固定しなければなりません。この中にも人

が入って作業します。



この写真は、正面から見たところ。いっぱい補強しているのが、鉄のパイプです。



型枠をばらしたらこのようになりました。最終的には、家と擁壁などで囲まれ、ほとんど見えなくなりますが、景観法上塗装しなければなりません。擁壁に突き刺さっているのは、防護柵H鋼と鉄網です。これで、全長約12m高さ3.1mとなります。最初は、こんなものいるのかなと思いましたが、できると一種の保険のような、とても安心な感じがしました。施設が完成されたらまた、ご紹介したいと思います。

荒木 智

蔵の外装工事

今回は、蔵の外装工事を紹介します。

工事前は本瓦葺きの屋根に、サイディングの外壁でした。(写真①)



まずは、古瓦を下ろすところから工事開始です。蔵は住宅の何倍もの土が屋根に乗っています。野地板の上に土野地がある為です。(写真②)



土野地は不陸が大きく、瓦の横棧を固定できません。ですので、野地板の補強を行います。土に野地板は取付出来ませんので、根太のあるピッチを探し、下地を打ち付けます(写真③)。



ここで大切なのは、固定ビスの長さです。蔵の土野地は20cm～30cm程ありますので、28cm～36cmのビスを使い分けます。長すぎると下から見えますし、短いと固定が出来ませんので注意です(>_<)。野地板の補強が終われば、瓦が葺けます。

サイディングの外壁をめくると土壁や台輪がボロボロでした。荒壁土を付けて直すところと、木下地を新しく組んで壁を

創るところを面によって使い分けました。同一の面で下地を混合させるのは、漆喰が後から割れる原因になりますので、ダメですよ。

瓦葺きと漆喰塗りが完成しました!(写真④)。



瓦の銀色と漆喰の白が美しく光っています!! 蔵をきちんと直す際、あちこちに手間がかかりますし、荒壁を乾かすのにも予想以上に時間がかかります。大変ではありますが、きちんと直し、残し続けて行くことが出来ます。町家だけでなく、土造の蔵も大事にしたいものです。

大久保 朋彦

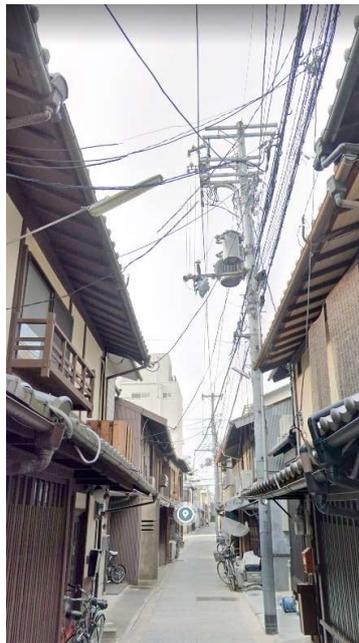
電線などの防護管取付工事

改修工事のご依頼を受けた際に行う現地調査のうち、必ずチェックする項目の一つに、工事範囲内の電柱や電線の有無があります。

改修工事に、屋根や外壁の改修などが含まれている場合、外部足場を設置しますが、足場に電線が接触してしまうと、感電の恐れがあるからです。

工事業者には、法令などに基づき、感電防止対策を講じることが義務付けられています。そのため、もし、工事と干渉する位置に電線などがあるとわかった場合は、工事に先駆けて、専門の業者に、電線や引込口を被覆する防護管の取り付けを依頼します。

防護管取り付け工事は、以前は関西電力さんが無償で工事を行っていたのですが、現在は有償となっています。基本料金55,000円+防護管の箇所数や距離に応じた金額になりますので、場合によっては10万円以上かかることもあり、お施主さんにはご負担をおかけすることになってしまいますが、安全に工事を行う上での必要な経費の一つですので、ご理解



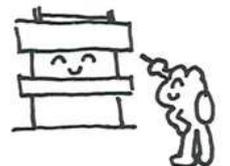
いただくようお願いしています。

先日、ある現場で、防護管取付業者と打ち合わせをしていた際、「この道路は防護管被覆ができないかもしれません」とのお話がありました。前面道路は私道ではなかったのですが、道幅が大変狭く、上空の電線が複雑に入り組んでいるため、防護管被覆のための高所作業車が通ることができないとのことでした。道路に建っている電柱についても、大型車が入れないために、分割式の電柱が使用されているとのことでした。

幸い、その現場では、防護管の取り付けは不要であることが判明したため、事なきを得ましたが、今後は上空の電線の高さや込み具合についても注目して現地調査を行わなければと感じました。



長崎 道



住まいについていろいろな話 第30回 「店舗に改装」

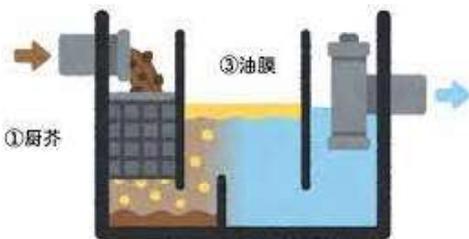
木造住宅から店舗に改装しました。住宅と違い店舗はいろいろと約束事が有りそれを一つずつクリアしながらの工事です。小さいスペースにいろいろなものを詰め込むので費用も掛かり工事期間もかかります。

当然ながら設計士さんとお客さんとで店舗の設計を詰められます。

次に工事会社に回ってきて見積りを行い、金額を決めて開始です。一般住宅では使わない物がたくさん出てきます。

▶ **グリーストラップ**：流し台からの排水を入れる装置です。ここで油分やごみを沈殿させきれいな水にして下水に流します。「ほとんど食器程度しか洗わないのでこれを必要としない」とよく言われるのですが、店舗には必需品です。実際は食べ盛りの子供が多い家庭のほうが、

はるかに出る量が多いのですが仕方ありません。



▶ **カウンター**：カフェバーと言えばカウンターです。今回カウンターそのものはお客様からの支給です。据え付けに必要な足までは製作し、カウンターそのものは業者が搬入して設置まで行います。いろいろやりとりが有りましたが、何とか所定の場所に納まりました。これが取付けられると一気にバーの雰囲気がでます。



▶ **バック棚**：ほぼカウンターの対面に据え付ける収納兼飾棚です。上下には必要な食器や食材や飲物が入ります。中間の飾棚はいろいろなもので飾り立てます。

▶ **台下冷蔵庫**：高さ80センチで横長の冷蔵庫です。天板がステンレスの調理台になっていて、この上で調理ができます。カウンター内狭くて結構これが重宝します。隣には流し台を置き、更に小型の冷凍庫も置きます。これでカウンターの下は機

材で一杯になりました。

▶ **スイングドア**：カウンター横についています。前後どちらにでも開き、キッチン～客席を仕切ります。



▶ **キッチン内の手洗器**：スイングドアから入ってすぐに手洗器を設置します。衛生管理上に必要なものです。

いろいろありましたが、他に玄関からの入り口、トイレ、洗面所、待合ベンチ、隣の座敷まで手を入れて、食事を出せるようにされました。なかなか感じよくまとまりました。

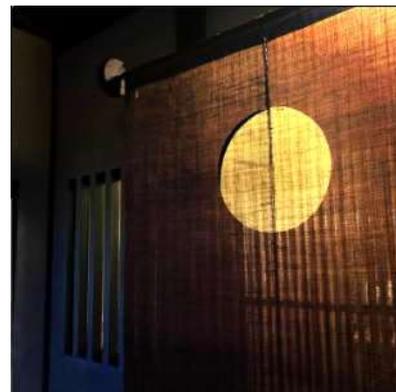
このお店は『Bar満き』さん。お宿に併設の6席のカウンターはまるで隠れ家のよう。ご興味のある方は、是非お訪ねください！

村上 幸男

Bar満き 京都市中京区竹屋町室町東入亀屋町142番地

営業時間:18:00-22:30

お店のinstagramはこちら



NHK-BS

NHK-WORLD-JAPAN Core Kyoto

当社の施工した京町家が3軒紹介されました。相変わらず、僕の声が高いため、ちょっと風格がないです。_| |O

私も登場していますが、お客さん、大工の足達君、牛田君、古材文化の会のSさんも登場しています(^_^)

ストリーミング放送は

こちら



雨漏り修繕工事

雨漏り修理のご依頼を頂きました。

お電話を頂いたのは昨年2021年の秋頃です。数年に渡り原因が分からない雨漏りに悩まされ、ズルズルと月日が経過してしまっ、とのことでした。

たまたま私が電話を取らせて頂いたのですが、お困りの様子が受話器越しのお声からよく分かりましたので、快く雨漏り調査をさせて頂くことになりました。ただ、数年間なかなか原因が見つからなかったという雨漏りが、直ぐに解決できる訳がないと、覚悟の上で挑ませて頂くことになりました。



調査開始です。ハシゴを掛け、屋根の上へあがり異常が無いか確認します。雨漏りの位置と屋根の形状から屋根が原因であろうと仮定し、疑わしい箇所にてコーキング処置を施します。まずは簡易に行える処置を行い、様子を見て頂くことになりました。

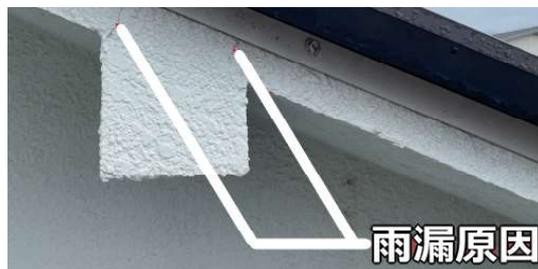
しかし案の定、改善はみられませんでした。少しは漏り難くなったようですが、横殴りの雨が降った際には変化はみられないとのことでした。雨漏りの調査で特に解決が大変になるのは、雨の降り方によって漏ったり漏らなかつたりする場合です。雨の向きや強さの条件が重なった時のみ漏るわけですから、その条件を探し出すのは困難を極めます。しかし途中で諦める訳にはいきませんので次の手を考えます・・・。

その後は雨漏りした際に何度か伺い天井点検口から状況を見たり、ハシゴからホースで水を流してみたりと、原因を探りますが解決には至りません。そして数回の雨漏りした際の条件から、西側からの横殴りの雨の時に漏ることが明らかになりました。

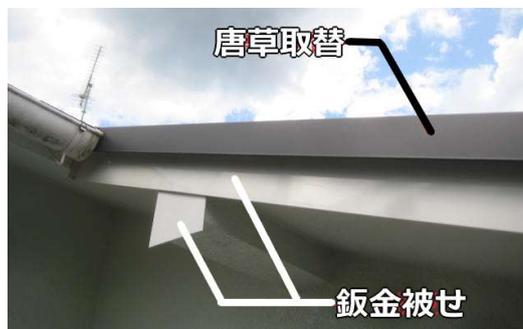
そこで西側からの雨が原因として考えられる範囲に足場を組み、安全に落ち着いて調査できる環境を整えることにしました。不安定なハシゴからの調査では水を掛ける角度や位置を細かく調整することが難しいからです。そして足場を組み調査再開です。簡単には見つかりません。心の中で頼むから漏つ



てくれ、と祈りながらの作業です。そして半日程掛けて水下からホースで徐々に水を掛けながら作業を進めたところ、遂に水が天井裏を伝い始めました。つい「漏った、漏ったー」と歓喜の声を上げてしまいました。



結局、雨漏りは写真にある母屋(小口)の塗装に入った細かいクラックが原因でした。まさかこの細かいクラックから、あれ程の雨漏りをするとは想像もしていませんでした。かなり細かい傷口でしたので本当に驚きです。これまでの雨漏りに対する認識が甘かったと言わざるを得ません。反省です。



お電話を頂いてから半年程の時間が経過してしまいましたが、これでやっと終わりの見えない工事を完了することができます。お客様には本当にお喜び頂いたので、諦めずに作業を続けて良かったです。

米沢 和也

高倉君の年明け祝い

大工見習だった高倉君が5年の修業期間を終え、無事一人前になることができました。コロナ禍のなか、マスクをしながらでしたら、みんなで集まってお祝い会をしました。

まだまだ、勉強しなければならない事がたくさんあるけど、いい大工さんになってほしいと願っています。



乾杯の発声をする足達君

京町家の外壁改修工事

こんにちは！ 現場監督の島田です。私も入社してあっという間に1年が経ちました。この1年を通し沢山の反省点、課題点がありますが、その間に様々な施主様との出会い、工事をさせて頂いたことに感謝を忘れず、これからも精進して参ります。

さて、今年の2月から3月にかけて、京町家の外壁を改修させて頂く機会がありました。私が担当した現場の紹介をさせていただきます。

京町家は家が隣接していることが多いので、解体した家の方が、『1番安い波板を張る』というのが多いのですが、今回は施主様と相談し、出来る限りの今しかできない工事をする事になりました。



写真①



写真②

▶ **足場の設置**：数量が少ないので、大工さん達に足場を建てていただきます。とても頼りになります♪(写真①)。

▶ **不陸調整**：既存の柱では、柱の出面が揃わないことが多く、このまま波板を張ると、見た目的に凹凸があるように見えるので、しっかりと縦横と横横を柱に添わせて打ち付けていきます。きちんと下地をし、不陸調整を施す事で外壁の見た目が全く違ったものに見えます(写真②)。



写真③



写真④

▶ **断熱材の充填**：この写真(写真③)ではまだ下半分までしか施工できていませんが、このあと上部までびっしり断熱材を充填しています。次に透湿防水シートを断熱材の上から張り、横横を柱に打ち付けます。要は、外壁(波板)と透湿シート間に胴縁で隙間を設け、湿気を逃がしてくれる役割を担います

(写真④)。

▶ **仕上材の施工**：外壁の化粧となる波板を、透湿防水シートの上から張っていきます。今回外壁の化粧として使用したのが、ガルバニウム合板『土佐杉色』です(写真⑤)。

▶ **水仕舞**：ケラバ(屋根の妻側の端部)を越境させてはならないという事で、ケラバ部分には合板下地をし、外壁の方まで折り込ませ水漏れがないようにします(写真⑥)。もちろん基礎部分にも板金加工で水切りを施し、水仕舞いは、ばっちりです。



写真⑤



写真⑥

今回の家屋の施主様は、弊社が10年前程に改修させて頂いた現場です。月日が経ち、このような形で工事をさせて頂いただけに感謝します。

それでは皆さん本日もご安全に！(^^)/

島田 将也

京都で働く♪

「京都移住計画」さんに、現場監督のWEBページを作ってもらいました。みんなかつつけて写真撮ってもらっています。よろしかったら、ご覧ください。



なぜか工場での図面チェック

編集後記

今回は、みんな、たくさん書いてくれたので、大変助かりました。徐々に文章が上手くなります。書くって大事ですね。僕も、メール以外文章を書く事がめっきり減ってしまいました。何か始めようかな・・・

荒木 勇